

# 日本人大学生の持つ外国語教師に対するピリーフ傾向<sup>1</sup>

工藤多恵  
Tae KUDO

志田あゆみ<sup>\*1</sup>  
Ayumi SHIDA

楠木理香<sup>\*2</sup>  
Rika KUSUNOKI

Japanese Students' Beliefs toward Foreign Language Teachers

## Abstract

Students and teachers bring their own beliefs about language learning into the classroom. Potential mismatches in students' and teachers' views could affect students' learning process and consequently, it could prevent one from learning the language effectively. Thus, knowing students' beliefs would be beneficial to enhance language teaching as well as students' learning. In addition, some previous research indicates that teachers themselves are deeply related to learners' internal motivation.

This study examines, using a questionnaire, one group of students' beliefs regarding teacher's roles and characteristics. The authors conducted a survey with 545 college students. The survey results show that more than 90% of the students feel that a 'good teacher' is necessary in order to succeed in the study of a foreign language. The students also prefer a teacher who 'is easy to get acquainted with', 'is trusted by the students' and 'consistently encourages the students.' Furthermore, they prefer a teacher who has knowledge on the target culture and the students' first language as well as foreign language pedagogy. At the same time, supportive attitudes by a teacher are considered to be essential for their learning.

---

\*1 立命館大学講師

\*2 立命館大学前講師

## 1. はじめに

学習者、教師はそれぞれ言語学習に関して、自らの言語学習経験や学習過程において長期的に形成されたビリーフ (belief) を持っている。言語学習のビリーフとは、「言語 (外国語) はどのように学習すべきか、言語学習はどのようなものであるかといった、言語学習に関しての意見、考え方、信念のこと (片桐, 2005: 85)」であると定義されている。学習者の持つビリーフは、学習ストラテジーや学習スタイルに影響を及ぼすだけでなく、教師とのビリーフの相違が効果的な学習の妨げになり得ることが考えられる。したがって、教師が学習者のビリーフを把握することは、言語学習の場や教授法などの改善において非常に重要である。そこで本研究では、特に教師の役割や資質に対する学習者ビリーフに着目し、学習者が外国語教師に関してどのようなビリーフを持っているのかを調査することにした。本調査により学習者たちが信念として思い描いている教師像を明らかにすることで、外国語学習法や教授法の改善に役立てることを目的とする。

## 2. 先行研究

言語学習におけるビリーフ調査はこれまで、インタビューや質問紙によって数多く行われている。上級日本語学習者にインタビュー調査を行った臼杵 (2005) は、言語学習における成功の秘訣として、学習者の持つビリーフの重要性を挙げ、なかでも「学習者が自律性を向上させ、自己の言語学習を成功に導くための学習者ビリーフ形成には、教師の役割が非常に大きい (臼杵, 2005: 540)」と述べ、教師が果たす役割を強調している。

臼杵が、言語学習成功につながる社会的ビリーフの一つとして挙げたのは、学習者が自己の学習に対する自律意識・責任意識をしっかりと持ち、教師に対しては「自分自身の学習を助ける役割 (p537)」や「自分の学習をサポートし、理解を助けるための役割 (p537)」を期待することであった。また、学習者たちが「教師へ期待しているのは、権威ではなく、学習者との親しい関係である (p539)」とも指摘している。

また、楠木・工藤 (2006) が大学生を対象に行ったインタビュー調査では、外国語学習の動機に影響する最大の要因として教師の役割が挙げられている。楠木・工藤 (2006) は同結果を自由記述形式の質問紙調査によっても確認しており、特に教師の性格特性や態度などの「人間的魅力 (楠木・工藤, 2006: 152)」が学習者にとっての大きな動機づけとなっていると報告している。

質問紙を用いた調査では、Horwitz (1985, 1987) によって開発された調査票 BALLI (Beliefs About Language Learning Inventory) が広く使われている。BALLI は34の選択式の質問項目から成り、1) 言語学習の適性、2) 言語学習の難しさ、3) 言語

学習の性質、4) 学習ストラテジーとコミュニケーションストラテジー、5) 言語学習の動機、の5領域に渡る広範なビリーフの調査に用いられる。このBALLIに「教師の役割」や「教師の資質」に関する項目を加えた調査が、橋本(1993)、片桐(2005)、久保田(2005)、高崎(2006)などによって行われているが、いずれの調査からも、学習者が自分の言語学習の過程において教師に期待する役割が大きいことがわかっている。

日本人大学生が英語教師に期待する属性に着目して行われたShimizu(1995)の質問紙調査では、学生は日本人ノンネイティブ教師とネイティブ教師に対して、それぞれ異なったビリーフを持っていると報告されている。Shimizu(1995)によると、学生はノンネイティブ教師に対しては知性や知識といった学問的なスキルが重要だと考えているが、一方、ネイティブ教師に対しては親しみやすく友好的か、また面白い(entertaining)かが重要な資質だと捉えているという。つまり、ノンネイティブ教師には教師としての技術面が重視されているのに対し、ネイティブ教師には性格や人柄の面が重視されているということである。

さらに、Makarova・Ryan(1997)は日本人大学生の考える良い英語教師像について自由記述形式の質問紙によって調査し、重要な要素として人格面に関わるものを多数挙げている。Makarova・Ryan(1997:137)によると、楽しい授業をし、学生とよくコミュニケーションをとり、フレンドリーで近づきやすく、リラックスした雰囲気が作れる教師が日本人大学生の望む外国語教師像だと報告されており、教師の性格特性に関わるものが多数挙げられている。

### 3. 調査方法

#### 3-1. 質問紙の作成

前章で述べたように、これまでHorwitz(1985, 1987)によって開発された調査票BALLIを用いた調査が広く行われている。しかし、BALLIの34の質問項目は言語学習全般に渡るさまざまなビリーフを扱うもので、言語教師の役割に特化した調査票ではない。そのため、言語教師の役割に関するビリーフを調査する場合には、片桐(2005)や久保田(2005)のように、従来のBALLIに「教師の資質」や「教師の役割」というカテゴリーを加えて調査が行われている。

本研究では、特に教師の資質や態度について学習者がどのようなビリーフを持っているかを調査することを目的とするため、先行研究で使われた質問項目を再構成し、新たに質問紙を作成することにした。用いた質問項目は、楠木・工藤(2006)によるインタビュー調査の結果に基づいて立てた項目を中心に、橋本(1993)、片桐(2005)、久保田(2005)、高崎(2006)、Shimizu(1995)の先行研究から引用、または一部修正して設

けた30項目である。その際、原文が英語であったものについては、原文の意味にできるだけ忠実に日本語に翻訳した。また、Shimizu (1995) のように、短い語句で教師の資質を表したものに関しても、その意味に配慮しながら文に書き換えた。例えば、Shimizu (1995: 7) で「easy to get acquainted with」と表現された教師の性質を本研究では、「親しみやすさは外国語教師にとって必要だ」と書き換えて質問紙に用いた。

回答は各質問項目に対する同意度を選択する形式で、「1. 非常にそう思う」から「2. そう思う」「3. そう思わない」「4. 全くそう思わない」までの4段階のリカー卜尺度により求めた。質問紙には他に回答者の背景として、性別、年齢、英語圏での滞在歴を問う項目を設けた。また、記名するかどうかは回答者の任意とした。調査に用いた質問紙は付録資料のとおりである。

### 3-2. 対象者および調査の手続き

調査対象者は、関西の四年制私立大学に在籍する英語クラスの受講生545名である。質問紙の配布と回収はともに、2006年度後期の第一回目の授業時間内に行った。回答にあたっては、特定の英語のクラスや英語教師について答えるのではなく、大学で受けている英語の授業一般についての自身の考えを答えるよう指示した。

質問紙を配布した545名全員から回答を得たが、その内、回答が不完全なものを除くと、最終的な有効回答者数は537名であった。以下の調査結果の分析では、この537名分のデータを分析対象とする。

## 4. 結果および考察

調査結果については、回答の分析にあたり、まず質問項目30項目をKJ法により分類(表1～7)し、考察を進めることとした。分類に関しては、筆者らで何度も検討を重ね、1) 教師の存在と影響力、2) 教師の資質、3) 指導方法の3つとした。また、以上の3分類に含まれない質問1項目を4) その他として、以下に結果を述べる。なお、文中の問の番号は質問紙上の番号のままである。

### 4-1. 教師の存在と影響力

「教師の存在と影響力」に関する質問と回答は表1のとおりである。そもそも学習者たちは外国語学習において教師の必要性を感じているのであろうか。本調査では、「外国語学習の成功のためには『よい教師』が必要だ(問2)」という質問に対し、88.1%の学習者が「非常にそう思う」または「そう思う」と答えている。「よい教師」とは学

習者によっても大きく定義が異なると考えられる。どのような教師が学習者たちにとって「よい教師」であるか、まずその一般的な傾向を探る第一段階として、外国語学習にとって教師が必要であることは、この結果明らかである。

次に、学習者の外国語学習の動機づけに教師はどの程度関係しているのだろうか。「自分の外国語学習に対するやる気は、担当教師によって左右される（問6）」に対して77.5%の学習者が「（非常に）そう思う」と回答している。また、「教師を信頼できるかどうかは、自分の外国語学習にとって重要なことだ（問13）」に肯定的な回答を示した学習者も80.8%に達し、信頼できる教師かどうかは学習者にとっては非常に重要なようである。

つまり、学習者たちは外国語学習に教師は必要だと考えており、また、その教師は「よい教師」「信頼できる教師」でなければならない。さらに、多くの学習者にとって、教師の存在は、外国語学習に対するやる気を左右するほどの大きな影響力をもつことがわかった。とはいえ、学習者たちは単純に「外国語が上達しないのは、教師の責任だ（問24）」と考えているわけではない。この項目については、91.6%の学生が「（全く）そう思わない」と答えており、外国語学習に教師は必要ではあるが、その教師に外国語学習の成功すべてを依存しているわけではなく、自律的な意識を持っていることも推察される。学習者は外国語教師に対して、外国語学習の結果に影響を及ぼす絶対的な存在というよりも、学習のスタートあるいは途中で正しく導き、アドバイスを与え、やる気を持続させてくれる学習の促進者としての役割を求めていることがうかがえる。

表1：教師の存在と影響力 (％)

1：非常にそう思う、2：そう思う、3：そう思わない、4：全くそう思わない、0：無効回答

問番号	質問項目	1	2	3	4	0
2	外国語学習のためには「よい教師」が必要だ	48.2	39.9	10.4	1.1	0.4
6	自分の外国語学習に対するやる気は、担当教師によって左右される	37.1	40.4	16.2	5.6	0.7
13	教師を信頼できるかどうかは、自分の外国語学習にとって重要なことだ	33.5	47.3	16.2	2.6	0.4
24	外国語が上達しないのは、教師の責任だ	1.9	5.8	65.9	25.7	0.7

#### 4-2. 教師の資質

次に、「教師の資質」に関わる項目として質問紙より9項目をとりあげる。自身の外国語学習に教師が大きな影響力を持つとした上で、学習者たちはどのような教師を求めているのだろうか。「教師の資質」に関する9項目には、さらに「性格特性」、「目標言語と文化に関する知識」、「学生の背景に関する知識」の3つの下位分類が構成されたため、この下位分類ごとに結果を考察する。

#### 4-2-1. 性格特性

まず教師の「性格特性」に関する項目と回答は表2のとおりである。「外国語教師にはユーモアが必要である（問8）」には83.2%が「(非常に) そう思う」と回答している。また、92%にもものぼる学生が「親しみやすさは外国語教師にとって必要だ（問11）」に肯定しており、そのうちの半数以上が「非常にそう思う」と答えた。「性格特性」に直接関わる項目は本調査では以上の2項目のみであるが、後述の「指導方法」で、学習者たちは外国語授業に「楽しさ」を求め、その多くは教師とのコミュニケーションを望んでいることがわかっている。そのことから、学習者が特に「親しみやすく」「ユーモアがある」教師を求めているということが裏づけられる。

表2：性格特性 (％)

問番号	質問項目	1	2	3	4	0
8	外国語教師にはユーモアが必要である	38.5	44.7	14.5	1.5	0.7
11	親しみやすさは外国語教師にとって必要だ	48.4	43.6	7.1	0.7	0.2

#### 4-2-2. 目標言語と文化に関する知識

「目標言語と文化に関する知識」に関する項目と回答は表3のとおりである。「外国語はその言語のネイティブに習うのが最も良い（問1）」の結果は、約70%の賛成にとどまっている。また、「外国語教師はその言語の話される国の文化について知っておくべきだ（問5）」に対しては81.6%が「(非常に) そう思う」と答え、「外国語教師は教える外国語の発音が正確でなくてはいけない（問7）」に対しても86.2%の学習者が「(非常に) そう思う」と回答している。これにより、学習者たちは教師の目標言語圏の文化に関する知識や発音の正確さに対して高い期待を持っていることが見受けられる。

一方で、「外国語教師はその言語が話される国に住んだことがなければならない（問9）」については、「(非常に) そう思う」が30%に満たない。学習者たちは教師に目標言語圏の文化知識を求めているが、その知識は必ずしも目標言語の国に居住することで得られた経験に基づく必要はないと考えているようである。本調査の対象者537名のうち、英語圏での1ヶ月以上の滞在経験がある学習者は16名のみであった。実際に目標言語の国に居住し、生活した経験が少ないためか、それらの経験から得られる知識や経験についてさほど意識は高くないようである。

最後に、「教師はその言語が流暢であれば、外国語教育の専門的な知識は特に必要ではない（問17）」に3.2%の学生しか「非常にそう思う」と答えなかったことを、問1の結果と関連づけて考えてみたい。約70%の学習者が「その言語のネイティブに習うのが最も良い」と考えている一方で、約75%の学習者は「教師はその言語が流暢であれば、

外国語教育の専門的な知識は特に必要ではない」に対して「(全く) そう思わない」と回答している。つまり、学習者たちは教師に、目標言語の発音の正確さや文化に対する知識を望んでいるが、単に目標言語のネイティブ・スピーカーであればよいというわけではないようである。ネイティブ教師、ノンネイティブ教師それぞれに習う場合の利点を意識している学習者もいることがうかがえる。

表 3：目標言語・文化に関する知識 (%)

問番号	質問項目	1	2	3	4	0
1	外国語はその言語のネイティブに習うのが最も良い	24.6	45.6	25.9	3.2	0.7
5	外国語教師はその言語の話される国の文化について知っておくべきだ	31.7	49.9	15.6	2.4	0.4
7	外国語教師は教える外国語の発音が正確でなくてはならない	42.8	43.4	11.4	1.7	0.7
9	外国語教師はその言語が話される国に住んだことがなければならない	8.0	21.0	49.0	21.6	0.4
17	教師はその言語が流暢であれば、外国語教育の専門的な知識は特に必要ではない	3.2	21.0	55.9	19.4	0.6

#### 4-2-3. 学生の背景に関する知識

「学生の背景に関する知識」に関する項目と回答は表 4 のとおりである。「ネイティブの先生には、学生が日本語で質問できるぐらいの日本語能力が必要だ (問10)」については、73.7%の学習者が「(非常に) そう思う」と答えている。対象者が受講している英語プログラムは理工系の内容に特化した ESP プログラムであるため、専門用語がみられたり、専門知識が必要であったりする場合がある。また、授業で使用するテキスト、副教材、テストは全て英語であり、またそれらの解説も全て英語で行われる。そのため、試験範囲や履修に関する説明などを日本語で望む学習者も存在する。そういったことから、日本語がある程度理解できる能力を教師に希望しているのではないかと思われる。次に、「外国語教師は授業をする国 (日本) の文化について知っておくべきだ (問12)」については「そう思う」が47.1%、「そう思わない」が30.4%で、中間的な回答に集中しており、特にはっきりとした意見や考えがみられない。目標言語を母語とする教師が数多い現在、学習者たちは、その教師たちに、ある程度の日本語能力や日本文化を理解した態度・姿勢を求める気持ちを持っていることが見受けられる。

表 4：学習者の背景に関する知識 (%)

問番号	質問項目	1	2	3	4	0
10	ネイティブの先生には、学生が日本語で質問できるぐらいの日本語能力が必要だ	28.3	45.4	23.1	2.8	0.4
12	外国語教師は授業をする国 (日本) の文化について知っておくべきだ	16.6	47.1	30.4	4.3	0.7

### 4-3. 指導方法

次に、教師の「指導方法」に関するものとして分類された項目をとりあげる。これらは全質問中、最多の16項目を占める。「指導方法」については、さらに下位分類として「授業の進め方」、「学習者とのコミュニケーション・インターアクション」、「評価・正確さに対する態度」の3つの面に分類されたため、この下位分類に沿って、結果の考察を行うこととする。

#### 4-3-1. 授業の進め方

まず、「授業の進め方」に関する項目と回答は表5のとおりである。83.4%の学生が「外国語の授業は楽しくなくてはならない（問18）」と回答している。楽しい授業とはどのような授業かを考えるとき、ヒントとなるのが、問25、問26、あるいは問30の結果ではないだろうか。「外国語教師は授業中に学生が話す機会をできるだけ多く設けるべきだ（問30）」と考える学習者が80%近くおり、「授業中に、外国語教師は授業と直接関係がない話をすべきでない（問26）」と考えるのはわずか5%しかない。つまり、授業中になるべく多く発話したい、先生からも授業以外の話も聞きたい、と考えている学習者が多く、そのような授業を望んでいることがわかる。また、授業中の学習者の発話に関連して、「授業中に外国語で話しやすい雰囲気は、教師によって作られる（問25）」と77%もの学習者が感じていることは、特筆すべき点であろう。これは、学習者たちが「授業中に外国語でたくさん話したい」「話したほうがいいだろう」と思っているにもかかわらず、教師によってはその機会を与えられないことがあると感じているということではないだろうか。この回答結果からも、外国語学習において教師が果たすべき役割がいかに重要であるかがうかがえる。

また、授業の具体的な進め方に関する「授業の進行を決めるのは、常に教師であるべきだ（問23）」については回答が「そう思う」、「そう思わない」に集中している。はっきりとした傾向がみられなかったことにより、学習者・教師どちら主体の授業を学習者が好むかについては、それぞれの学習者が様々な意見や考え、希望を持っていることがわかる。

最後の「外国語教師は授業でなるべく日本語を使わないようにすべきだ（問22）」については、回答が中間に集中している。全体でみると意見が大きく二つに分かれているが、目標言語の習熟度別に結果をみると、大きく違いが表れることが予想される項目である。本調査の対象者は、習熟度別に3つのクラスに分けられている。そこで、「（非常に）そう思う」の回答をクラス別にみると、Upper-Intermediate（中上級）クラスが約60%、Intermediate（中級）クラスが約40%、Pre-Intermediate（中下級）クラス



が30%弱となっており、教師の日本語使用については、習熟度により異なるビリーフ傾向がみられた。

表5：授業の進め方 (％)

問番号	質問項目	1	2	3	4	0
18	外国語の授業は楽しくなくてはならない	38.0	45.4	14.5	1.7	0.4
22	外国語教師は授業でなるべく日本語を使わないようにすべきだ	7.6	33.9	49.0	8.9	0.6
23	授業の進行を決めるのは、常に教師であるべきだ	6.3	40.8	47.5	5.0	0.4
25	授業中に外国語で話しやすい雰囲気は、教師によって作られる	25.0	52.0	20.3	2.4	0.4
26	授業中に、外国語教師は授業と直接関係がない話をすべきでない	1.1	3.9	52.0	42.6	0.4
30	外国語教師は授業中に学生が話す機会をできるだけ多く設けるべきだ	15.8	62.4	19.6	1.3	0.9

#### 4-3-2. 学生とのコミュニケーション・インターアクション

次に、「学生とのコミュニケーション・インターアクション」に関する項目と回答は表6のとおりである。前述のように、学習者たちは「ユーモアがあり」「親しみやすく」「信頼できる」教師を求めている。そのような教師が実際に存在するならば、74.1%もの学習者たちが「機会があれば外国語学習以外のことも、教師と話したい（問3）」と感じているのも当然であろう。また、「教師は学生が授業についてどう思っているかに耳を傾けるべきだ（問21）」については、89.2%の学習者が「（非常に）そう思う」と回答している。この結果は、学習者たちの中に教師に耳を傾けられたいという思いや、主張したい考えがあるということを表しているとも言えるであろう。多数の学習者がこの項目に同意を示した要因の一つには、受講している英語プログラムが全クラス統一カリキュラムであることが関係しているのかもしれない。「教師は学生をクラス全体として見るよりも、一人ひとりを見るべきだ（問27）」と感じている学習者が66.3%であることと関連づけて考えてみると、統一シラバスで、学習内容や進度、評価方法などが同じであるため、より一層強く、学習者たちは個々として認められたいと感じているのではないかとも思われる。学習者たちは、外国語教師とできれば親しく交流でき、授業への意見なども交換できるような関係でありたいと思い、そのような関係を作りやすい雰囲気を持つ教師を求めているのである。

また、実際に指導を受ける際にも、学習者たちは、教師が自分と直接関わってくれるような方法を好んでいるという結果がみてとれる。例えば、72.2%が「外国語学習の過程において、教師の励ましは常に必要だ（問19）」と考えており、「外国語学習には、授業時間外（空き時間やメールなど）での教師のサポートも必要だ（問4）」と考える学生も63.9%にのぼる。以上の結果は、学習者たちが教師と直接コミュニケーションをと

り、インターアクションをすることを望んでいるからにほかならない。さらにこれは、クラス全体あるいは学習者全体としてではなく、一人の学習者として認識してほしいという学生たちの思いの表れではないだろうか。前述のように、66.3%の学生が「教師は学生をクラス全体として見るよりも、一人ひとりを見るべきだ（問27）」と考えており、「提出物に対して教師からのコメントは特に必要ない（問28）」に対して「非常にそう思う」と回答した学習者はわずか1.7%であった。

表6：学習者とのコミュニケーション・インターアクション (%)

問番号	質問項目	1	2	3	4	0
3	機会があれば外国語学習以外のことも、教師と話したい	19.0	55.1	22.3	3.2	0.4
4	外国語学習には、授業時間外（空き時間やメールなど）での教師のサポートも必要だ	11.9	52.0	31.7	3.4	1.1
19	外国語学習の過程において、教師の励ましは常に必要だ	17.5	54.7	23.3	3.9	0.6
21	教師は学生が授業についてどう思っているかに耳を傾けるべきだ	22.9	66.3	9.3	1.5	0.0
27	教師は学生をクラス全体として見るよりも、一人ひとりを見るべきだ	11.9	54.4	28.9	4.3	0.6
28	提出物に対して教師からのコメントは特に必要ない	1.7	12.5	66.9	18.8	0.2

#### 4-3-3. 評価・正確さに対する態度

「評価・正確さに対する態度」に関する項目と回答は表7のとおりである。問14と15は授業中の発言や、予習、ノートテキングに対する評価について聞いたものである。「外国語教師は授業中によく発言する学生に対して好印象を持つと思う（問14）」という項目に対して、93.6%の学習者が「(非常に) そう思う」と回答している一方で、「外国語教師は予習やノートテキングなどの学生の態度も評価すべきだ（問15）」に対しては、72.2%の学習者が「(非常に) そう思う」と回答している。外国語授業時の発言は非常に重要だと考えてはいるが、授業外の予習、またはノートテキングなどの一見目立たない努力や「聞く」という受動的な授業態度も評価してもらいたいと考えていることがわかる。成果のみではなく、様々な角度からの評価を希望しているのではないだろうか。

また、問20と29は学習者の用いる目標言語の正確さに対する教師の態度についての項目であるが、78.1%の学習者が「外国語教師は学生の誤りに気づいたら、常に訂正すべきだ（問20）」で「(非常に) そう思う」と答えており、学習者が正確さを追及する一面をうかがわせる。一方で、「外国語教師は学生が正確な発音で話すように要求すべきだ（問29）」に対しては、回答が中間に集中しており、はっきりした傾向がみられなかった。これは、発音の正確さが追求されすぎると、不安 (anxiety) を感じ、発話に消極的になるなど、自身の学習行動に負の影響が及ぶ可能性を学習者が感じているためではない

かと推察される。

表 7：評価・正確さに対する態度 (％)

問番号	質問項目	1	2	3	4	0
14	外国語教師は授業中によく発言する学生に対して好印象を持つと思う	44.1	49.5	5.4	0.6	0.4
15	外国語教師は予習やノートテキングなどの学生の態度も評価すべきだ	16.0	56.2	22.9	4.3	0.6
20	外国語教師は学生の誤りに気づいたら、常に訂正すべきだ	15.3	62.8	20.7	1.1	0.2
29	外国語教師は学生が正確な発音で話すように要求すべきだ	5.8	50.7	40.0	3.0	0.6

#### 4-4. その他

以上、質問紙29項目を3分類した結果と考察を述べてきたが、3分類に含まれなかった1項目「授業時の外国語教師の服装は重要ではない(問16)」を最後に「その他」として述べる。これについては、90.5%の学習者が「(非常に) そう思う」と答えている。すでに当大学のポリシーとしてある程度の服装規定があるためか、恐らく学習者たちは特に教師の不適切な服装を目にした経験もないのであろう。あるいは、外国語の授業に関して、学習者たちはリラックスした雰囲気やカジュアルさを求めているためか、服装については特に気にならないとも考えられる。または教師の服装も、「目標言語の文化」だと捉えているのかもしれない。いずれにせよ、学習者たちは服装などの外見より、教師の性格特性や授業の進め方などの内面的な部分を強く意識していることは明らかである。

#### 4-5. まとめ

日本人大学生の英語学習者が外国語教師に対して持つビリーフの調査結果を3つに分類して考察してきた。以上の調査結果および考察をまとめると、まず本調査の学習者にとって「よい教師」は必要不可欠であるといえる。また、教師は学習者の外国語学習に対するやる気を左右するほど大きな存在である。したがって、教師は自身が学習者に与える影響の大きさを自覚しておく必要がある。ここで、本調査により明らかになった「よい教師」像をまとめると、次の6点が挙げられる。これらの点について、教師は認識を持っておくことが重要である。

- 1) ユーモアがあり、親しみやすく、信頼できる。
- 2) 目標言語圏での居住経験は必ずしも必要ではないが、その国の文化を知っており、目標言語の発音が正確である。
- 3) 外国語教育の専門知識、また学習者の質問がある程度理解できる日本語能力を有する。
- 4) 学習者が話す機会が多く、楽しい授業を組み立てる。

- 5) 学習過程全体を通して学習者を励まし、また相談相手となり、学習を促進する。
- 6) 授業中の発言だけでなく、予習やノートテキングなどの学生の態度も評価する。

## 5. おわりに

本調査では、日本人大学生の英語学習者537名全体のビリーフ傾向を概観した。しかし、本研究の限界として次の2点が挙げられる。第一に、本調査の対象者が在籍する英語プログラム特有のクラス運営方法が、学習者のビリーフに影響を与えた可能性がある。例えば、上級クラスだけは全授業がネイティブ教師によって担当されていることや、授業中の発言の多さが直接評価の対象となっていることが、対象者の回答になんらかの影響を及ぼしたとも考えられる。

第二に、対象者は習熟度別にクラス編成されているが、結果を学習者全体の傾向として分析したことである。例えば、「外国語はその言語のネイティブに習うのが最もよい（問1）」や「外国語教師は授業でなるべく日本語を使わないようにすべきだ（問22）」の回答結果は、先に少し述べたように全体ではそれほど大きな傾向はみられないが、習熟度別にみると傾向に違いがあることがうかがわれた。今後はこのように、学習者の習熟度により異なるビリーフについても分析し、考察を進めたい。また教える側の外国語教師はどのようなビリーフを持っているのかについても調査し、学習者が持つビリーフとの相違の分析を含めて、教育現場への具体的な提言へつなげたいと考えている。

- 
- 1 本稿は、2007年8月8日「第47回（2007年度）LET 全国研究大会」名古屋学院大学において発表した原稿をもとに修正を行ったものである。

## 参考文献

- 1) 橋本洋二 (1993). 「言語学習についての BELIEFS 把握のための試み－BALLI を用いて－」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』第 8 号, 215-241.
- 2) Horwitz, Elaine K. (1985). “Using Students Beliefs about Language Learning and Teaching in the Foreign Language Methods Course,” *Foreign Language Annals*, 18, 333-340.
- 3) Horwitz, Elaine K. (1987). “Surveying Student Beliefs about Language Learning,” *Learner Strategies in Language Learning* ed. by Anita Wenden & Joan Rubin, Prentice-Hall, 119-129.
- 4) 片桐準二 (2005). 「フィリピンにおける日本語学習者の言語学習 Beliefs－フィリピン大学日本語受講生調査から－」『日本語国際センター紀要』国際交流基金, 85-101.
- 5) 久保田美子 (2005). 「ノンネイティブ日本語教師のビリーフ調査－指導内容、指導方法を中心とした分析－」『明海大学大学院応用言語学研究科紀要』No.7, 163-176.
- 6) 楠木理香・工藤多恵 (2006). 「外国語学習の動機に関わる要因－アンケート・面接調査結果による一考察」『立命館法学 別冊ことばとそのひろがり(4)－山口幸二教授退職記念論集』139-164.
- 7) Makarova, Veronica and Ryan, Stephen M. (1997). “The Language Teacher Through the Students’ Looking Glass and What you See There: Preliminary Results,” *Speech Communication Education*, Vol.10, 127-154.
- 8) Shimizu, Kathleen (1995). “Japanese College Student Attitudes Towards English Teachers: A Survey,” *The Language Teacher*, Vol.19, No.10, 5-8.
- 9) 高崎三千代 (2006). 「フィリピン・マニラ首都圏の大学における日本語学習者のビリーフ－歴史的・社会的背景の視点からの考察－」『国際交流基金日本語教育紀要』第 2 号, 65-80.
- 10) 臼杵美由紀 (2005). 「上級中国人学習者の日本語学習に対する意識と成功への鍵－インタビュー調査からの考察」『上越教育大学研究紀要』vol.24(2), 531-543.

付録資料：質問紙

これは外国語学習（英語学習）に関するアンケートです。特定の英語のクラスや英語教師についてではなく、大学であなたが受けている英語授業一般についての考えをお聞きます。各項目を読んで、あなたの賛成度を示すもの（1～4）に○をつけて下さい。正しい答えも間違った答えもありませんので、あなたの考えに合う番号を選んで下さい。あまり深く考え込まず、直感で答えてください。尚、この授業の成績とは一切関係ありません。

	非常にそう思う	そう思う	そう思わない	全くそう思わない
	1	2	3	4
1 外国語はその言語のネイティブに習うのが最も良い。	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
2 外国語学習の成功のためには「良い教師」が必要だ。	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
3 機会があれば外国語学習以外のことも、教師と話したい。	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
4 外国語学習には、授業時間外（空き時間やメールなど）での教師のサポートも必要だ。	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
5 外国語教師はその言語の話される国の文化について知っておくべきだ。	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
6 自分の外国語学習に対するやる気は、担当教師によって左右される。	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
7 外国語教師は教える外国語の発音が正確でなくてはいけない。	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
8 外国語教師にはユーモアが必要である。	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
9 外国語教師はその言語が話される国に住んだことがなければならぬ。	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
10 ネイティブの先生には、学生が日本語で質問できるぐらいの日本語能力が必要だ。	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
11 親しみやすさは外国語教師にとって必要だ。	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
12 外国語教師は授業をする国（日本）の文化について知っておくべきだ。	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
13 教師を信頼できるかどうかは、自分の外国語学習にとって重要なことだ。	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
14 外国語教師は授業中によく発言する学生に対して好印象を持つと思う。	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
15 外国語教師は予習やノートテイクなどの学生の態度も評価すべきだ。	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>

16 授業時の外国語教師の服装は重要ではない。

--	--	--	--

17 教師はその言語が流暢であれば、外国語教育の専門的な知識は特に必要ではない。

--	--	--	--

18 外国語の授業は楽しくなくてはならない。

--	--	--	--

19 外国語学習の過程において、教師の励ましは常に必要だ。

--	--	--	--

20 外国語教師は学生の誤りに気づいたら、常に訂正すべきだ。

--	--	--	--

21 教師は学生が授業についてどう思っているかに耳を傾けるべきだ。

--	--	--	--

22 外国語教師は授業でなるべく日本語を使わないようにすべきだ。

--	--	--	--

23 授業の進行を決めるのは、常に教師であるべきだ。

--	--	--	--

24 外国語が上達しないのは、教師の責任だ。

--	--	--	--

25 授業中に外国語で話しやすい雰囲気は、教師によって作られる。

--	--	--	--

26 授業中に、外国語教師は授業と直接関係がない話をすべきでない。

--	--	--	--

27 教師は学生をクラス全体として見るよりも、一人ひとりを見るべきだ。

--	--	--	--

28 提出物に対して教師からのコメントは特に必要ない。

--	--	--	--

29 外国語教師は学生が正確な発音で話すように要求すべきだ。

--	--	--	--

30 外国語教師は授業中に学生が話す機会をできるだけ多く設けるべきだ。

--	--	--	--

あなたの性別 【 男 ・ 女 】

あなたの年齢 【      才】 【      回生】

留学やホームステイなどで英語圏に滞在した経験がありますか？

【はい ・ いいえ】

【はい⇒ 期間は？

】